

○11 番（福本達雄君）

11 番、福本達雄です。

土庄町北部エリアの振興について、3 点ほど質問させていただきます。

まずは、航路の休止についてです。現在 1 日 4 往復運航されている大部一日生航路のフェリーが、令和 5 年 12 月 1 日より運航が休止されることが発表されました。町からの経過説明がありましたが、説明のあと、発表までの間が短かったため多くの住民の方が不安、不満を持っています。

今後の町としての対策を問います。

○議長（濱野良一君）

企画財政課長 佐伯浩二君。

○企画財政課長（佐伯浩二君）

それでは、福本議員のご質問にお答えいたします。

大部一日生航路の運航休止につきましては、5 月 15 日に両備グループからプレス発表があり、本年 12 月 1 日からフェリーの運航が休止となるとの報道がなされています。

町に対しましては、4 月 12 日に運航事業者である瀬戸内観光汽船株式会社が役場に来庁し、文書により「収支悪化による航路休止」の告知があったところです。

町といたしましては、備前市とも対応を協議するとともに、5 月 1 日には船会社へ赴き、田邊社長と直接お会いした上で、休止の延期等についても要望いたしました。しかし、「収支悪化は、10 数年前からの構造的理由による物流減少に起因しており、加えて、新造船が必要となることなどを総合的に勘案した上での両備グループとしての決定であるので、ご理解賜りたい」との返答があり、残念ながら運航休止はやむを得ないと判断せざるを得ませんでした。

住民の皆さまへの周知につきましては、船会社から情報管理を徹底するよう要請があったため、町としては、プレス発表直前まで表向きに動くことはできませんでした。こうしたことから、地元自治会長への説明会を 5 月 11 日に開催したところですが、福本議員のご指摘のとおり、住民の皆さまにしてみれば、情報開示が遅いとのことご不満を抱かれることも十分理解できますので、今後の糧としてまいりたいと存じます。

なお、この状況を踏まえ、本州側との貴重な航路である姫路－福田航路について、現在減便されている便の回復を、町長ともども要望してまいりました。町といたしましては、大学との域学連携交流事業を通して、学生を中心とした関係人口や交流人口の拡大を図るとともに、一般財団法人北部みらいの活動との連携を強化し、にぎわいづくりを推進していくなど、北部エリアの振興に、より一層努めてまいりたいと考えております。

○議長（濱野良一君）

福本達雄君。

○11 番（福本達雄君）

回答ありがとうございます。

地元の声では、いまだ運行再開を望む声が強くあります。それで、いま一度、地元への丁寧な説明を設ける機会ということは考えてはおりませんか。

○議長（濱野良一君）

佐伯課長。

○企画財政課長（佐伯浩二君）

今後の対策といいますか、やり方としましては、まず7月に入りまして、四国運輸局のほうにも赴きまして、いろいろ相談させていただくとともに、そのような結果も踏まえながら地元の方とのお話も、またやっていきたいと思っております。以上です。

○議長（濱野良一君）

福本達雄君。

○11 番（福本達雄君）

どうもありがとうございます。

地元の説明も本当に大切ですから、どうぞよろしくお願いします。

続きましては、移住促進について、町内に移住を希望する方に空き家バンク制度がありますが、改修工事の必要な空き家が多いと思います。すぐに入居できる物件を数多く確保しておくことが移住希望者の選択肢が増え、移住促進につながります。

現在、土庄町内で空き家となっている戸数と分布および改修規模の把握はできているでしょうか。空き家を町で借り上げ、リフォームして移住希望者を積極的に町に受け入れる制度が必要に思われます。よろしくお願いします。

○議長（濱野良一君）

企画財政課長 佐伯浩二君。

○企画財政課長（佐伯浩二君）

それでは、福本議員のご質問にお答えいたします。

ご質問の町内の空き家戸数と分布及びその改修規模につきましては、令和3年度に本町全域において「空き家等実態調査」を実施しております。

その結果によりますと、町内の空き家等の数は 952 戸となっており、その分布は大部地区が 212 戸で最も多く、次いで土庄地区が 181 戸、豊島地区が 176 戸となっております。

改修規模につきましては、A 評価の「ほとんど汚れがなく、修繕がいらぬ」が最も多く 707 戸、D 評価の「管理が行き届いておらず、損傷が激しい」と E 評

価の「倒壊の危険が有り、解体などの緊急度が極めて高い」が 77 戸となっており、大部地区、豊島地区に多く見られます。

議員ご提案の、空き家を町で借り上げ、リフォームして移住希望者を積極的に受け入れる制度につきましては、高知県の梶原町（ゆすはらちょう）がこの制度に取り組んでいるところです。制度内容については、所有者が改修および転貸することを承諾した空き家を原則無償で借り上げ、所有者との契約期間を 10 年もしくは 12 年とし、契約期間満了後、所有者に返還するものであり、小豆島町においても、今年度、モデル的にこの事業を実施すると聞いております。

この事業につきましては、土庄町においても検討しておりますが、まずは、その効果や制度設計等を検証する必要があることから、現段階では小豆島町での実施状況を注視していくこととしております。

なお、土庄町におきましては、今年度からの新規事業として、「若者住宅取得助成事業」及び「U ターン同居リフォーム支援事業」を開始したところであり、すでに 12 件の申し込みがあったことをご報告申し上げます。

福本議員がおっしゃるとおり、住まいは移住・定住において重要な要件の一つであります。こういった事業が住まい確保をしていく上で有効で、地域にとっても望ましいものであるか、限られた予算の中で最大限の効果を生み出せるよう、引き続き取り組んでまいります。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

福本達雄君。

○11 番（福本達雄君）

まず移住は住居探し、相談を受ける担当課が危惧されておると思いますが、貸しても借りても、リフォーム費用の価格が非常にネックとなっております。できるだけ多大の負担が少なくなるよう、効率のいい制度、設定をよろしく願います。

続きまして、デマンド型タクシーについてです。

昨年度、デマンド型タクシーの実証実験を行っていますが、残念ながら利用者は無しの結果です。運転免許証返納を考えて、病院の通院や買い物に不安を感じている方は多くいます。お年寄りなど交通弱者への対策は将来、必要不可欠です。

利用者無しの要因は何だったのでしょうか。また、今後、必要になると思われるデマンド型タクシーの運用について問います。よろしくお願いします。

○議長（濱野良一君）

健康福祉課長 石床勝則君。

○健康福祉課長（石床勝則君）

福本達雄議員のご質問にお答えいたします。

昨年度、実施したデマンドタクシーの実証実験に合わせ、昨年 12 月にデマン

ドタクシー利用登録者 42 名と各自治会長、民生・児童委員、単位老人クラブ会長 137 名を対象にアンケート調査を実施いたしました。その結果から、デマンドタクシーの利用者がいなかった理由としては、「タクシーの発車時間が 1 便のため利用しづらかった」「一人利用の場合の金額が高い」「知らない人と一緒に乗ることへの抵抗感がある」などの意見が寄せられたところです。

一方で、利用登録者の半数以上が「今後は利用したい」と回答しており、町といたしましては、今後の交通弱者対策として、デマンドタクシーは選択肢の一つであると考えております。ただ、路線バス経営との競合など、デマンドタクシーの導入については、慎重に取り組まなければならない側面がありますとともに、「福祉バス」や社会福祉協議会が実施している「ふれあい送迎サービス事業」など、デマンドタクシー以外の方策についても併せて検討していく必要があることから、今後は、これらの方策とのバランスを考慮しながら、公共交通の担当である企画財政課と合同の検討委員会を設置し、検討していきたいと考えております。以上です。

○議長（濱野良一君）

福本達雄君。

○11 番（福本達雄君）

実証実験の結果で理由がなかった一番の要因は、利用料金だと私は考えております。その次には、1 便で利用しづらかった。この点を改善していけば、将来的に改善していければ、利用者がもっと増えると思いますが、いかがでしょうか。

○議長（濱野良一君）

石床課長。

○健康福祉課長（石床勝則君）

福本議員の再質問にお答えいたします。

先ほど言われましたように、単価につきましても、利用頻度につきましても、この辺につきましても合わせて検討したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（濱野良一君）

福本達雄君。

○11 番（福本達雄君）

デマンド型タクシー制度は、将来的に路線バスと共存して運営していくことが必要と考えておりますので、今後の制度設定に向けていろいろと検討よろしくお願いします。

まずは、住民の意向も踏まえながら、詰めた協議でよろしくお願いいたします。それでは、土庄町北部エリアは、石材業などで、町の経済を支えてきた歴史があります。これは、残石公園の資料でもあります。まず、とり残すことがないよう

お願いし、私の一般質問を終わります。